

齊藤杏庵翁碑

取手市小文間5464付近

J R常磐線の取手駅から東へ約5キロメートルにある小文間郵便局のあたりから南に向かって利根川に下っていく坂道を、通称「宗四郎坂」と呼んでいます。この宗四郎坂を下る手前に台座も含めて高さ約4メートルの「齊藤杏庵翁碑」が建っています。江戸時代の初めに小文間村を開発し、以後名主を務めた齊藤家の当主は代々宗四郎を名乗っていたようで、宗四郎坂の名称は、これに由来するとされています。

碑にその名が刻まれている齊藤杏庵は、天保6年（1835）に齊藤家に生まれ、14歳の時に江戸に出て、江戸幕府の教育機関であった昌平黌に学び、長州藩の久坂玄瑞とも机を並べたこともあるといわれています。昌平黌を出た後は、秋田藩に学者として招かれましたが、人材育成の重大さを感じ、招かれてから6年後には帰郷し、近郷の子弟を集め、塾を開きました。

この塾は「齊藤塾」と呼ばれ、瓦葺2階建ての校舎2棟と校庭があり、当時の教育機関としては立派な設備を誇っていました。杏庵は仁徳兼ね備えた人格者でありましたが、学問におけるしつけはたいへん厳しかったと伝えられています。人間教育を重んじた点に大きな特色があり、この塾に学んだ人たちは1万人を下らないといわれ、後年、郷土の発展のために大いに貢献しました。



杏庵の子どもたちも優秀で、杏庵を助けて塾を盛り立てました。しかし、大正の頃になると、公教育機関の整備などによって、塾も次第に衰退し、杏庵が大正4年（1915）に亡くなり、その後、杏庵を助けた子どもたちが相次いで亡くなると、閉鎖のやむなきに至りました。

その後、杏庵を慕う300人以上の浄財により、大正15年（1926）8月にこの碑が建てられました。碑の上部には、総理大臣も務めた高橋是清の筆による「齊藤杏庵翁碑」の文字が刻まれています。

茨城教育 第八七〇号

令和四年十月二十日発行

編集責任者 鹿志村 則男

発行人 鹿志村 則男

発行所 一瞥閣 茨城県教育会

水戸市見和一三五六一一

電話 〇二九一三二一一七四七

印刷所 有限会社山田軽印刷所